800x600mm

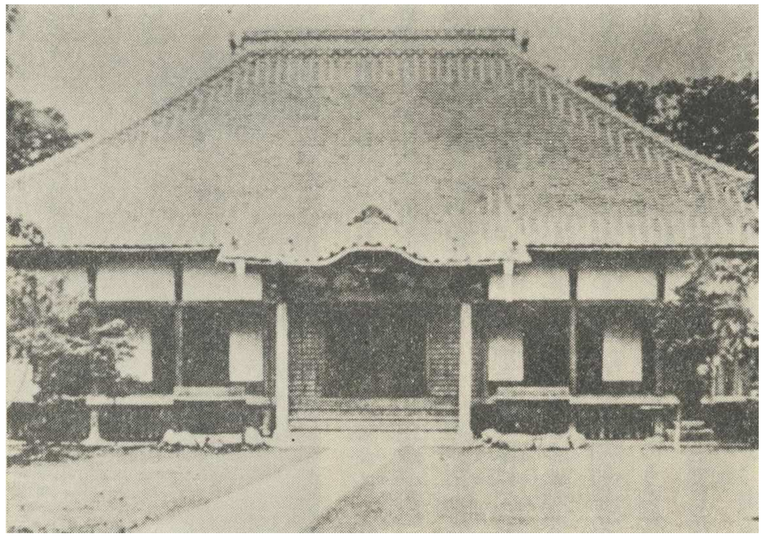
千葉氏ゆかりの地

大日寺跡

Site of Dainichi-ji Temple

千葉市中央区中央1丁目4

千葉氏ポータルサイト　Foreign Languages



明治後期の大日寺本堂

梵鐘　康永3年（1344）

ここはかつて「千葉家累代の墓塔」と伝えられる五輪塔群（千葉市指定文化財）を有する阿毘廬山密乗院大日寺（真言宗）があった場所です。千葉氏の守護神「妙見」を祀る金剛授寺尊光院（現在の千葉神社）と大日寺が軒を連ねたこの付近は、中世の千葉のまちの中心であり、聖なる空間として意識されていたことがうかがえます。大日寺は、昭和20年（1945）の空襲で焼失したため、戦後に稲毛区轟町へ移転し、跡地は戦災復興の都市計画によって公園となりました。

称名寺（横浜市金沢区）に残る聖教（僧侶の修学や宗教活動に用いられた仏教の典籍類）には「下州千葉之庄大日堂」などと記録があり、大日寺の前身とも考えられます。大日堂では称名寺長老の剱阿が聖教を書写するなど、関東における真言律宗の中心的な寺院であった称名寺との深い結びつきがありました。

また、『鎌倉大草紙』には、大日寺は千葉頼胤が鎌倉極楽寺の良観（忍性）を開山として小金の馬橋（松戸市）に建立した千葉氏の代々の冥福を祈った寺で、孫貞胤の時に千葉へ移ったこと、康正元年（1455）、千葉胤直たちが多古城・島城（多古町）で滅んだ際、胤直らの遺骨が大日寺へ送られ、石造五輪塔が建てられたことが記されています。

昭和38年（1963）、公園整備工事を行っていた際に、地下から康永3年（1344）に造られたという銘文のある梵鐘（千葉市指定文化財）が出土しました。突然出土した南北朝時代の梵鐘は、都市化のため破壊し尽くされたと思われてきた中世の千葉のまちが、足元に眠っている可能性を示しています。

千葉市教育委員会